



～掲載内容～

～ページ～

**○普及指導活動の成果紹介**

・・・ 1～6

令和元年度岩手県普及活動年報から久慈地域における主要成果を抜粋して紹介します。

引き続き御支援・御協力をお願いします。

「ほうれんそうの生産性向上技術の確立と普及」

「生産管理精度の向上による畜産経営の安定化」

「産地直売所販売額の維持・拡大による農業者の所得向上」

**○令和2年度の熱中症予防行動【再掲】**

・・・ 7

「新しい生活様式」に対応した熱中症の予防行動については、前号でもお知らせしましたが、暑くなる時期を迎えますので、特に屋外やハウスでの作業の際は、熱中症にならないよう十分に注意してください。

**○作業機つきトラクターの公道走行について**

・・・ 8

作業機を装着・けん引した状態のトラクターが、一定の条件（灯火器類、作業機の幅、最高速度、運転免許、チェーンなどの確認が必要）を満たした場合に公道走行が可能となりました。

周囲の方々への安全を第一に、注意して走行してください。

詳しくはお近くの農機販売店等にご確認ください。

**○普及現地情報**

・・・ 9

「産地リーディングサポーターによる園芸農家巡回を実施しました！」

# ほうれんそうの生産性向上技術の確立と普及

【久慈農業改良普及センター】

## ■ 課題名

ほうれんそう産地力の強化

## ■ ねらい

JA新しいわて久慈地域野菜部会及び久慈地方農業農村活性化推進協議会では、久慈地方のほうれんそうの生産性向上を目指し、「久慈地方ほうれんそう産地拡大実践プラン」を平成30年度に策定した。そのプランに基づき、同野菜部会では、関係機関・団体等と連携して取組を推進することとしており、当普及センターでは、主に生産性向上技術の確立及び普及を図った。

## ■ 活動対象

JA 新しいわて久慈地域野菜部会

## ■ 活動経過

### (1) 安定生産技術の確立

#### ア 夏期安定生産技術

(ア) 屋根ビニルを被覆する遮光幕のかけ外し作業を省力化するため、平成30年度にハウス内部に設置する遮光幕開閉装置の導入に取り組み、作業の省力化について検証したが、本年度は、別の遮光幕開閉装置（商品名：ビンスライダー）を設置し、昇温抑制効果を検証した。

(イ) 久慈地域野菜部会では、これまで地域に適した品種を選定するために、品種比較試験を行ってきた。本年度は、高温により収量が低下する夏期に、耐暑性に優れ、萎凋病に強い品種の探索を目的とした試験圃の設置・調査を支援した。久慈地域野菜部会主催で開催された「品種検討会」では、試験結果を検討した。

#### イ 省力化技術

(ア) 秤量皿にほうれんそうを乗せると設定値に準ずる組合せを算出し点灯する計量機械（商品名：テーブルコンビ）を活用した作業体系を実証し、省力効果及び製品ロス削減効果を検証した。

(イ) 昨年度発売された新型調製機について、導入後の聞き取り調査を行ったところ、株の詰まり、根切り位置が不安定等の不具合が生じていることがわかった。そこで、生産者と機械メーカーの意見交換の機会を設けた。

### (2) 安定生産技術の普及

ほうれんそうの生産性向上及び省力化に関する理解を深めるため、久慈地方農業農村活性化推進協議会主催による「園芸産地づくり推進セミナー」を1月に開催した。このセミナーにおいて、(1)のA及びイに示した実証結果等を報告・協議した。

## ■ 活動成果

### (1) 安定生産技術の確立

#### ア 夏期安定生産技術

(ア) 遮光幕開閉装置をハウス内部に設置することで、内部の気温上昇が懸念されたが、屋根ビニルを被覆する場合と比べて、気温差は認められず、収量に違いは見られなかった。

(イ) 品種比較試験では、供試した品種に萎凋病や抽苔が発生したため、いずれも収量が慣行品種を下回り、結果として夏期に有望な品種の選定にはつながらなかった。品種検討会では、産地全体の夏期の収量の伸び悩みに対し、時期に適した品種の作付けを徹底できていないのではないかと意見が出され、産地の問題を生産者自身が解決しようとする前向きな姿勢が見られた。次年度は、夏期に適した品種の探索を継続して行うとともに、品種交替時期の前に栽培指導を行い、時期に適した品種の作付けをするよう呼び掛けていく。

#### イ 省力化技術

(ア) 計量機械について、大規模生産者をモデルとした実証結果から、作業効率が3～4%向上、製品ロス率が5% (10g/袋) 削減されることが認められた。実証農家は、計量精度の高さや疲れにくさを高く評価しており、実証後も使用を継続するほどであった。

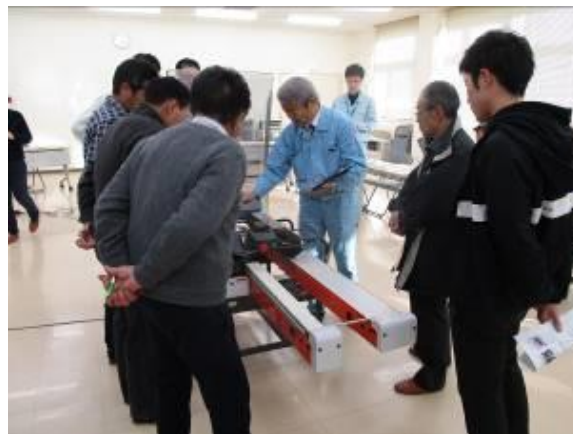
(イ) 新型調製機の不具合を機械メーカーに直接伝える機会を設定したことにより、機械メーカーが迅速に対応して部品交換をすることになり、問題改善につながった。

#### (2) 安定生産技術の普及

令和2年1月に開催したセミナーでは、今年度の実証結果について経営試算と評価を示し、参加した生産者50人に対し情報提供できた。次年度は、これまで実証してきた個々の省力化機械の結果をもとに一貫体系を提示し、そのメリットを示すことにより、経営の規模拡大を支援していく。



▲ 計量機械を活用した作業体系実証の様子  
(テーブルコンビは中央下)



▲ 新型調製機を囲んでメーカー開発担当者  
と意見交換を行う生産者



近年は気候が変化しており、季節による気温の変動や、病害虫の発生時期も変化し、これまでのほうれんそう栽培の仕方では対応できない場面が多くなっています。夏場を中心に気候の変動に対応できる品種を取り入れていけるよう、準備をしていかなければならないと考えております。品種の選定は農家所得に大きくかわる部分ですので、農家や関係機関としっかり協力しながら取り組んでいきたいです。

所属職名：JA新しいわて久慈営農経済センター職員

氏名：小野寺潤

#### ■ 協働した機関

JA 新しいわて久慈地域野菜部会、久慈地方農業農村活性化推進協議会 (JA 新しいわて久慈営農経済センター、各市町村、振興局農政部及び普及センター等で構成)

#### ■ 久慈農業改良普及センター

産地育成課 (宮川英幸、佐藤恵梨子、及川優介)、経営指導課 (輪達公重)

執筆者：及川優介

# 生産管理精度の向上による畜産経営の安定化

【久慈農業改良普及センター】

## ■ 課題名

酪農及び和牛繁殖経営体の生産性向上

## ■ ねらい

久慈地域では、酪農及び肉用牛の生産量や販売額は増加しているものの、飼料・資材価格の高騰に加え、労働力の不足や担い手の高齢化が進んでいる。

今後の持続可能な産地の確立に向け、既存技術の改善で生産管理精度を高めながら、ICT等の新たな生産技術を効果的に導入・運用し、省力化や効率化を進めることにより、生産性の向上や経営の安定化を図るもの。

## ■ 活動対象

久慈地域の畜産経営体（酪農9戸、和牛繁殖7戸）

## ■ 活動経過

### （1）酪農家の生産管理精度向上支援

#### ア 生産性向上と安定

乳牛モニタリング（のべ12回）、牛群検定成績及び飼料給与量の確認等を通じ、課題整理や改善提案等を実施。

#### イ 哺育期管理技術向上

哺乳ロボットの運用に関する改善策の提案等を含めて、子牛モニタリング（のべ26回）等に基づき、飼養管理状況の把握や改善提案等を実施。



哺乳ロボット運用支援の様子

### （2）和牛繁殖農家の飼養管理技術向上支援

#### ア 飼養管理技術の向上

繁殖雌牛モニタリング（のべ23回）や「モットー君通信簿」を通じた改善提案や、分娩看視機器の導入支援を実施。

#### イ 哺育期管理技術向上

適正な哺乳や飼料給与、冬期間の保温対策を含む飼養環境の改善など、子牛モニタリング（のべ24回）に基づき、改善提案等を実施。



繁殖雌牛モニタリングの様子

## ■ 活動成果

### （1）酪農家の生産管理精度向上支援

経産牛1頭当たりの年間乳量は、目標の101%（現状比）に対し、実績は100%となった。現状の飼養管理状況を牛群検定成績から数値で把握した上で、乳牛モニタリングにより実際の飼養管理（飼料給与）状況と乳牛のコンディションを確認し、さらに飼料供給元のTMRセンタ



一の粗飼料原料を精査することで乳量増加を目指したが、暑熱期の飼料品質の低下があったことや、ヒートストレスによる乳牛の体調不良などが続発し、現状の乳量は上回ったものの目標達成には至らなかった。

また、子牛の生後1週間程度での死亡割合は、目標の17%に対し、実績も17%となった。哺育牛に対する適切な分娩から出生までの管理方法を提示するとともに、哺乳ロボット導入経営体1戸に対して運用に関するアドバイスを随時行い、現状の19%から17%へ改善し目標を達成した。

暑熱期に生産性を低下させるヒートストレス及び暑熱期の飼料品質の低下に対する対策として、今年度調製した飼料用とうもろこしサイレージの一部を、次年度の夏季給与用としてロール調製している。加えて、暑熱期の受胎成績悪化による空胎日数の長期化と、泌乳後期以降の過肥による分娩前後の体調不良が懸念されるため、今後も飼養管理精度の向上に向けたモニタリングの実施と改善策の提案を継続して行っていく。

## (2) 和牛繁殖農家の飼養管理技術向上支援

繁殖雌牛の平均分娩間隔は、目標の444日に対し、実績は441日となった。長期不受胎牛の更新を進めつつ分娩前後の飼養管理を徹底し、分娩後60日以内での授精開始に意識的に取り組んだことで、平均分娩間隔は現状の450日から441日へ改善し目標を達成した。

また、去勢子牛の標準発育確保（久慈管内の年間平均日齢体重に対する活動対象者の年間平均日齢体重の割合）は、目標の91%に対し、実績は94%となった。分娩前後の飼養管理の徹底に加えて、哺乳及び育成管理を徹底することで、生時体重と生後の増体速度が改善され、現状の88%から94%へ改善し目標を達成した。

積極的な繁殖管理の意識が醸成されつつある中で、依然として「発情の見逃しが多い」「発情兆候が弱い」「初回授精の受胎率が低い」という現状があることから、今後は定期的な飼料給与内容の確認や発情発見手法の見直しを行い、より効率的な繁殖管理の徹底を図る。加えて、哺育期管理については、管理の改善と省力化が図られつつあるものの、適正な管理の定着には至っていないことから、冬期間の飼養管理の徹底とあわせ、今後も定期的な巡回支援を継続して行っていく。



令和元年12月に補助事業で新しい牛舎を整備し、自動給餌機やパーラー、牛群管理システムなど、新技術も導入しました。新しい牛舎の稼働に合わせて、ボディコンディションスコアや跛行の確認等を定期的に行ったことで、飼養管理も良い状態で移行できていると思います。規模拡大に伴い、産乳量も徐々に増加しているので、今後は技術の向上とともに、経営管理について積極的に取り組んでいきたいと思っています。

所属職名：洋野町 青年農業士（酪農） 氏名：堤内裕子

### ■ 協働した機関

J A新しいわて久慈営農経済センター、県北広域振興局農政部、県北家畜保健衛生所

### ■ 久慈農業改良普及センター

経営指導課（課員：高畑博志、齋藤浩和）

執筆者：高畑博志

# 産地直売所販売額の維持・拡大による農業者の所得向上

【久慈農業改良普及センター】

## ■ 課題名

産地直売所の販売額の維持・拡大

## ■ ねらい

久慈地域の産地直売所（以下「産直」とする。）の販売額は、平成27年度までに8億5千万円前後まで増加してきたものの、出荷者の高齢化が進行していることもあり、近年は横ばいである。

産直の販売額の維持・拡大は、出荷者の所得の確保のみならず、地域の活性化にも貢献し得るものであることから、産直の魅力向上や集客力の向上を進めていく必要がある。

平成30年度まで、久慈農業改良普及センターでは、運営改善に取り組む意欲のある管内の6産直に対して、自らで運営改善に取り組めるよう、運営改善計画書の作成・実践・評価・改善（PDCAサイクル）の取組を支援するとともに、外部アドバイザーによる個別指導等を実施してきた。その結果、各産直の主体的な運営改善の取組が定着してきたことから、今後更なる発展が見込める3産直を対象とし、販売額の維持・発展に向けた支援を実施するものである。

## ■ 活動対象

販売額1億円以上で運営改善に取り組む意欲が高く支援要望のある産直（以下「重点産直」とする。）

※産直名：道の駅くじ産直まちなか、洋野町大野農産物直売所ゆうきセンター、JA新しいわてふれあい産直ショップ花野果

## ■ 活動経過

### （1）産直運営改善の実施支援

重点産直の各産直は、3施設とも販売額の向上に向けた運営改善に取り組んでおり、農業改良普及センターでは、それぞれの産直に対し随時支援を行った。

### （2）消費者ニーズに対応した品揃えの充実

重点産直では、消費者からの要望を踏まえ、出荷者に対して新たな品目の生産や購入ニーズの高い品目の生産拡大を提案している。販売品目の拡大は、重点産直に限らず、管内の産直において重要であることから、久慈地域産直連絡協議会と連携し、野菜栽培品目拡大にむけた栽培研修会を令和元年6月と令和2年2月に開催した。

### （3）出荷者（会員）確保に向けた支援

#### ア 出荷者確保に向けた働きかけ

重点産直のうち、出荷者が減少している「道の駅くじ産直まちなか」及び「洋野町大野農産物直売所ゆうきセンター」に対して、各産直による新規会員の募集等に向けた働きかけや助言を行った。

#### イ 新たな集荷システムの構築

産直運営者が、出荷者が居住する地域まで野菜などの生鮮品の集荷を行う仕組みを構築し、産直へ出荷する生産者の増加を促すため、集荷試験を行うとともに、集荷試験により明らかになった課題について、その解決方法を提案することとした。なお、新たな仕組みによる取組の開始時期は、令和3年度を目標としている。

## ■ 活動成果

### (1) 産直運営改善の実施支援

重点産直に実施した具体的な支援内容は以下のとおり。

野菜新品目の栽培技術指導、新規出荷者の獲得に向けた相談対応、集客イベント開催に係る助言、加工食品の適正な食品表示に係る支援、品揃えの充実に係る助言

### (2) 消費者ニーズに対応した品揃えの充実

ア 秋冬期向け研修会（令和元年6月開催）：冬キャベツ、しゅんぎく、だいこん

イ 夏秋期向け研修会（令和2年2月開催）：ブロッコリー、ねぎ、ズッキーニ

### (3) 出荷者（会員）確保に向けた支援

#### ア 出荷者確保に向けた働きかけ

各産直単独で新規出荷者の募集等を行うのは難しいことから、久慈地域産直連絡協議会（会長：まちなか産直会会長）が主体となり、出荷者募集チラシやポスターの作成を行うこととした。

#### イ 新たな集荷システムの構築

平成30年度に引き続き、農繁期に行う集荷試験を実施する産直を公募したが、応募した産直はなく、昨年度試験を実施した「道の駅くじ産直まちなか」に対し、集荷試験の実施に向けた調整を4回行ったが、運営事業者である太陽の野菜畑株式会社では、集荷を行う人員の確保が困難であることから、集荷試験の実施を断念した。

新たな集荷の仕組みは、新規出荷者獲得の可能性が高まることから、令和3年度からの取組開始を目標として、仕組みの構築に向けた取組を継続することで合意を得ている。



野菜栽培研修会の様子



集荷の様子（昨年度の集荷試験）



「道の駅くじ産直まちなか」では、久慈地域の新鮮な農産物を中心に各種生鮮品を販売しておりますが、近年は販売額が伸び悩んでいます。

産直が生産者の元へ出向いて青果物を集荷する新たな取組は、販売商品を増やす方法の一つだと思います。今年度は試験集荷を行うことができませんでしたが、様々な課題を解決して集荷の取組を進めていければと思います。

所属職名：太陽の野菜畑株式会社 フードグループ グループ長 氏名：中塚 匡志

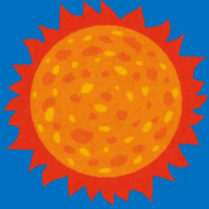
## ■ 協働した機関

久慈地域産直連絡協議会、久慈地方農業農村活性化推進協議会

## ■ 久慈農業改良普及センター

地域指導課（課員：土田泰輔）

執筆者：土田泰輔



# 令和2年度の 熱中症予防行動

環境省  
厚生労働省  
令和2年5月

## 「新しい生活様式」における熱中症予防行動のポイント

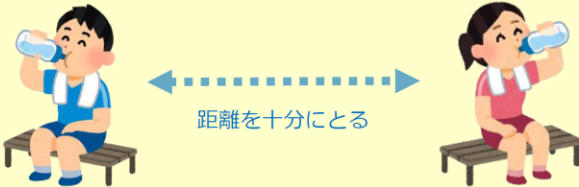
新型コロナウイルスの出現に伴い、感染防止の3つの基本である①身体的距離の確保、②マスクの着用、③手洗いや、「3密（密集、密接、密閉）」を避ける等の「新しい生活様式」が求められています。このような「新しい生活様式」における熱中症予防行動のポイントは以下のとおりです。

### 1 暑さを避けましょう

- ・エアコンを利用する等、部屋の温度を調整
- ・感染症予防のため、換気扇や窓開放によって換気を確保しつつ、エアコンの温度設定をこまめに調整
- ・暑い日や時間帯は無理をしない
- ・涼しい服装にする
- ・急に暑くなった日等は特に注意する



### 2 適宜マスクをはずしましょう



- ・気温・湿度の高い中でのマスク着用は要注意
- ・屋外で人と十分な距離（2メートル以上）を確保できる場合には、マスクをはずす
- ・マスクを着用している時は、負荷のかかる作業や運動を避け、周囲の人との距離を十分にとった上で、適宜マスクをはずして休憩を

### 3 こまめに水分補給しましょう



- ・のどが渇く前に水分補給
- ・1日あたり1.2リットルを目安に
- ・大量に汗をかいた時は塩分も忘れずに

### 4 日頃から健康管理をしましょう



- ・日頃から体温測定、健康チェック
- ・体調が悪く感じた時は、無理せず自宅で静養

### 5 暑さに備えた体作りをしましょう



- ・暑くなり始めの時期から適度に運動を
- ・水分補給は忘れずに、無理のない範囲で
- ・「やや暑い環境」で「ややきつい」と感じる強度で毎日30分程度

高齢者、子ども、障害者の方々は、熱中症になりやすいので十分に注意しましょう。3密（密集、密接、密閉）を避けつつ、周囲の方からも積極的な声かけをお願いします。



新型コロナウイルス感染症に関する情報：

[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164708\\_00001.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164708_00001.html)

熱中症に関する詳しい情報：<https://www.wbgt.env.go.jp/>





# ロータリー・ロールベラー等を 装着・けん引したままで 公道走行が可能になりました!

作業機を装着・けん引した状態のトラクターが、一定の条件を満たした場合に公道走行が可能となりました。周囲の方々への安全を第一に、注意して走行してください。

## Q. 「一定の条件」とはどのようなものですか?

A. 灯火器類、作業機の幅、最高速度、運転免許、チェーンなどの確認が必要となります。詳しくはお近くの農機販売店や、地方運輸局、地方農政局、(一社)日本農業機械工業会にご確認ください。

例えば灯火器類なら……

- ・直装式作業機\*を装着してトラクター本体の灯火器類が見えなくなる場合は、お近くの農機販売店で、灯火器類を増設しましょう!
- ・けん引式作業機\*の場合は、トラクター本体の灯火器類が見えていても、作業機に灯火器類を備える必要があります。



<直装式作業機で本体の灯火器類が見えない例>



<けん引式作業機の例>

\*直装式作業機:ロータリー、ハロー、直装式ブームスプレーヤ、播種機等のトラクターに直接装着する作業機。

\*けん引式作業機:ロールベラー、マニュアルプレッタ等の車輪がついている作業機。

農林水産省

【お問合せ先】

農林水産省 生産局 技術普及課 03-6744-2111

[http://www.maff.go.jp/j/seisan/sien/sizai/s\\_kikaika/kodosoko.html](http://www.maff.go.jp/j/seisan/sien/sizai/s_kikaika/kodosoko.html)



## 産地リーディングサポーターによる 園芸農家巡回を実施しました！

久慈地方農業農村活性化推進協議会では、毎年、ほうれんそう農家及び菌床しいたけ農家を対象に、夏季の生産意欲向上と栽培管理の徹底を目的として、盛夏前に全戸巡回を行っています。

本年度は7月7日から5日間、JAや普及センターなど指導機関により巡回班を編成し、管内約320戸を巡回しました。

出発式が行われた初日には、高度な生産技術と経営感覚を持った先導的生産者である産地リーディングサポーターと、

これからの産地を担う若手生産者が一緒に巡回し、夏季に適した品種への切り替えや病害虫の発生程度の確認やその対策の指導を行いました。

また、若手生産者が全戸巡回に参加するのは今回が初めてのことでしたが、各ほ場で先輩の生産者と栽培の悩みを共有したり、移動中の車内でも産地リーディングサポーターと積極的に情報交換したりする様子も見られ、次代のリーダー候補としての熱い意欲が感じられました。



出発式の様子（於：JA久慈営農経済センター）



巡回には産地リーディングサポーターと若手生産者が参加しました



## 久慈農業改良普及センターfacebook 公開中！

久慈寒次郎が、最新の情報や HOT な情報をお届けします。

下記の URL、または右の QR コードからご覧ください。

<https://www.facebook.com/岩手県久慈農業改良普及センター-581601925540151/>



## ～いわてアグリベンチャーネット掲載記事の紹介～

いわてアグリベンチャーネットでは、毎月、各地域の農業情報をお知らせしています。

### 【6月分の掲載記事】

○産地紹介：『【こだわり加工房】まるこパン工房コパン』 二戸市にあるパン工房の紹介です

○人物紹介：『赤坂拓郎さん(西和賀町)』 わらび・きゅうり・いちごの生産者紹介です

○『普及活動年報』 県内各地域の普及センターの取組を紹介します

下記の URL、または右の QR コードからご覧ください。

<https://i-agri.net/Index/gate004/003/18226>

